

第5章



計画の推進

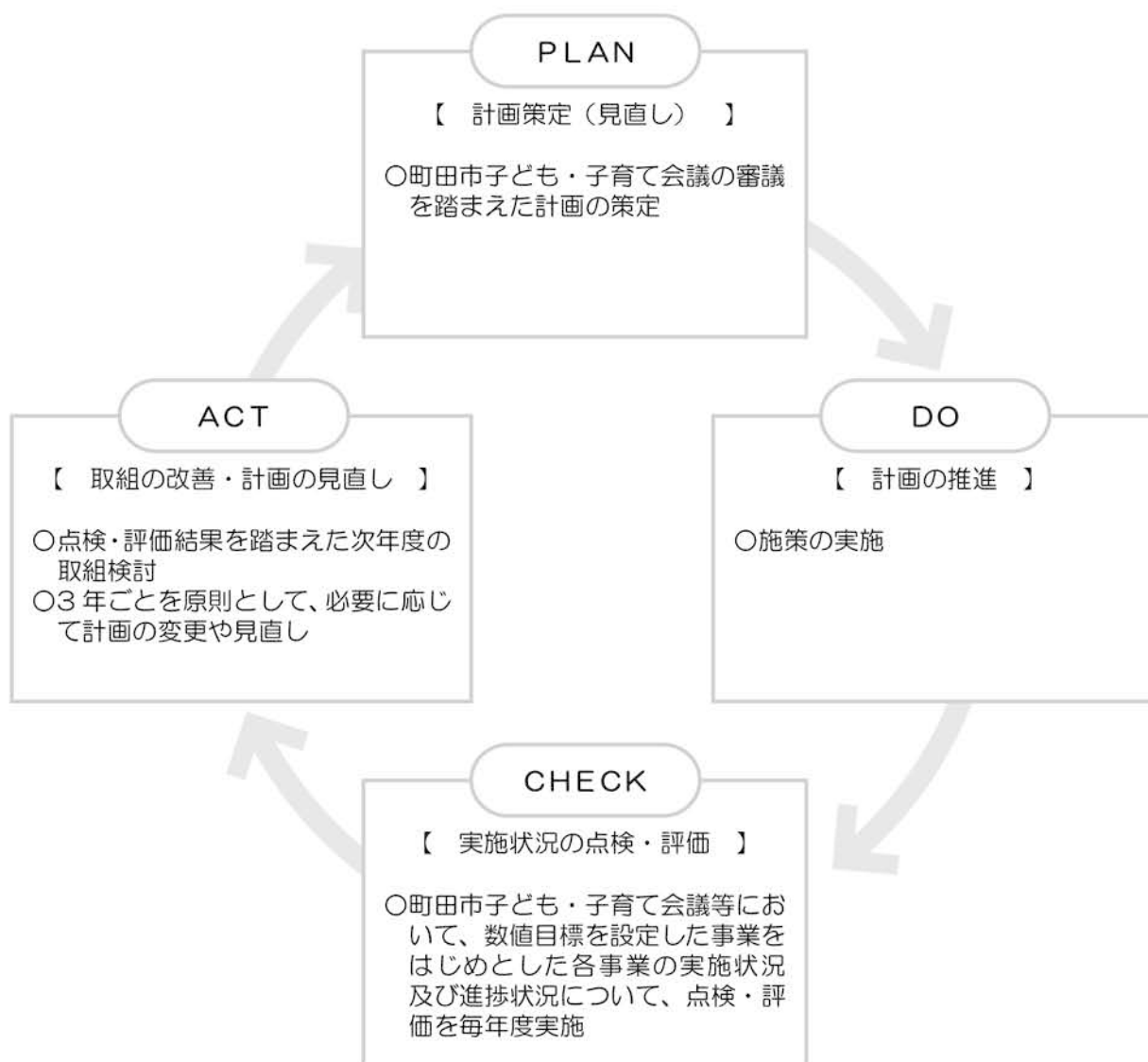
第5章 計画の推進

1 計画の進行管理

本計画に基づく取組みの実施に当たっては、年度ごとに点検・評価を行い、その結果を踏まえたうえで取組みの充実・見直しを検討する等、PDCA サイクルを確保し本計画を計画的かつ円滑に推進することが重要です。

計画の適切な進行管理を進めるために、庁内関係各課を中心に具体的施策の進行状況について把握するとともに、「町田市子ども・子育て会議」において、施策の実施状況について点検、評価し、これに基づいて対策を実施するものとします。

■PDCA サイクルと町田市子ども・子育て会議の役割



※PDCAサイクル

P=PLAN（プラン）
…具体的な施策など

D=DO（ドゥ）
…実行

C=CHECK（チェック）
…点検・評価

A=ACT（アクト）
…改善

2 関係機関との連携

計画に掲げる取組は、市が単独で実施できるもののほか、法律に基づく事業もあるため、国や都、近隣市との連携を深め、必要に応じて協力要請を行ったうえで、計画を推進します。

また、行政の取組みだけでなく、家庭や地域をはじめ、子育てサークル、ボランティア、NPO等の関係団体等の協力が不可欠です。そのため、これらの個人・団体等の活動と連携しながら、子どもの発達支援を推進していきます。

第1章 計画の概要

第2章 支援を必要とする子どもの状況

第3章 計画の基本的な考え方

第4章 施策の展開

第5章 計画の推進

第6章 参考資料

会長あいさつ

発達支援計画の骨子にはインクルージョンの考え方があります。「すべての人が障がい等について・・・」とありますが、障がいのある子どもを理解するということはどういうことでしょうか。障がい名や診断名から子どもを理解するのではなく（障がいに関する豆知識でその子を理解するのではなく）、大切なことは、その子を一人のひととしてみて、理解することが必要です。その子どもの好きなこと、嫌いなこと、苦手なこと、得意なこと、こだわっていること、困っていること・・・といったように、障がいがあるからといって特別な考えをもつことなく関わっていくことが大切です。一方で障がいのある子どもの困難についても理解しなくてはなりません。できることが限られること、コミュニケーションが取りにくいこと、集団活動が苦手となりがちといったことは十分に理解して関わっていくことも重要なことです。町田市子ども発達支援計画は、子ども・子育て会議において委員の方々が白熱する論議の中で、打ち立てられた計画です。計画は実践されてこそ、その計画は100%以上の価値を持ってくるものです。多くの皆様が支援計画を基に自身の生活の中で、発達支援とは何なのかを確認して頂き、障がいがある子ども達とそのご家族の方々が毎日希望を持って、明日への希望をもって豊かに生きていくことのできる町田市作りに参加して頂ければと願っています。

「インクルージョンは・・・共に育ち暮らすことができるように、人格と個性が尊重されて社会的に包容されること」、と締めくくっています。

2018年3月

町田市子ども・子育て会議会長
東京家政学院大学現代生活学部教授
金子 和 正

第1章 計画の概要

第2章 支援を必要とする子どもの状況

第3章 計画の基本的な考え方

第4章 施策の展開

第5章 計画の推進

第6章 参考資料